

神童から天才、そして世界的アーティストへ
更なる飛翔を遂げる
小林愛実のソロ・リサイタル

3歳からピアノをはじめ9歳で米カーネギーホールに出演、14歳でCDデビューを果たし、2021年にはショパン・コンクール第4位入賞、共演したオーケストラはNHK交響楽団、チューリッヒ・トーンハレ管、ミュンヘン・フィル等多数…未だ若くして恐るべきキャリアを築く小林愛実が、大きなアンコールの声に応えて再び横浜に帰ってきます!

CDデビューと同じく、わずか14歳のときに横浜みなとみらいホールでソロ・リサイタルを開催し大きな話題となった小林愛実は、以降も度々同ホールに出演。その超絶かつ華麗な演奏を披露してきましたが、出産を経て以来となった直近の公演(2025年7月)では従来の華麗なスタイルをそのままに、奥行きのある表現力が加味され、それまでとは明らかに違う領域へと進んだことを感じさせてくれました。この進化の継続こそ、神童と呼ばれた幼き頃から現在まで彼女の演奏が人々を熱狂させ続ける所以でしょう。

前回公演の後にもマルタ・アルゲリッチなどとの共演を重ね更なる経験を積んだ小林愛実が、次はどんな世界を見せてくれるのか。どうぞご期待ください!

AIMI KOBAYASHI
PIANO RECITAL

©HOSOO CO.

小林愛実(ピアノ) Aimi Kobayashi, Piano

2021年10月「第18回ショパン国際ピアノコンクール」第4位入賞。

1995年山口県宇部市出身。3歳からピアノを始め、7歳でオーケストラと共演、9歳で国際デビューを果たす。

これまでに、スピヴァコフ指揮 モスクワ・ヴィルトゥオーゾ、ブリュッヘン指揮 18世紀オーケストラ、ジャッド指揮 ブラジル響、ポスカ指揮 チューリッヒ・トーンハレ管、ソヒエフ指揮 ミュンヘン・フィルハーモニー管など国内外における多数のオーケストラと共演。

2010年14歳でEMIClassicsよりCDデビュー。サントリーホールで日本人最年少となる発売記念リサイタルを開催し翌2011年にはセカンドアルバム「熱情」をリリース。

2015年10月「第17回ショパン国際ピアノコンクール」ファイナリストとなった。

2018年4月、ワーナークラシックスよりCD「ニュー・ステージ〜リスト&ショパンを弾く」をリリース。同年8月には、ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ音楽祭に出演し好評を得た。

2021年8月ワーナークラシックスよりCD「ショパン:前奏曲集他」をリリース。

2024年11月に最新CD「シューベルト:4つの即興曲作品142、ピアノ・ソナタ第19番 ハ短調、ロンド イ長調(連弾)他」をリリース。フィラデルフィア・カーティス音楽院で、マンチェ・リュウ教授のもと研鑽を積んだ。2022年3月、第31回出光音楽賞受賞。